

●あなたの声を待ってます。みんなでつくる〈あごら〉

出口がないということ

うか。見えない壁も、指ではじいて音を比べてみたら隠れたドアがどの位置だったか、見えてくるかもしれない。そしてそのとき、どんな展望を抱いて「入口」をくぐりぬけたかを思い出すことも……。

ある会社で、長年女子社員の世話をしている年輩の女性が、こう言っていた。「職場に不満ですぐやめる人ほど、何年かたって結婚生活にあきたらなくなり、相談を持ちかけてくるのですよ」と。「入口」を急いでくぐりぬけた人たちではなからうか。

人にそんなことを言えたがらではないと、自分も

思う。「職業」の入口にしても、「結婚」の入口にしても、私などは全く不用意に入ってしまった。このごろの若い人たちが、そのどちらも、しっかりと見比べ入っていくのを見ると、日本の状況も、少しはよくなるだろうと希望が湧く。

「出口」を模索して苦しみ始めたら、「入口」を考えなおしてみたらどうだろう。もう一度、入り直すのもよし、もはや年ふりて壁でふさがれたと覺悟して、中をつくり変えるのもよし……。

どちらにしても、「出口のない主婦」ということばは

職業を捨て、輝やかしい「主婦」の「入口」に飛び込んだとき、ドアを、壁で塗り込めてしまったのだろ

は、もうそろそろ死語にしたいと思うのだが。
(斎藤千代)

〈27号〉



1979年4月10日発行 ￥100 丁50

今月のなかみ

〈東京事務局編集〉

表紙のことば
報 告

出口がないということ：

へあごらの財政について

斎藤千代：1

集会から

「アジアの女たちの会」結成二周年集会：北村三和子

またまた女と老いについて……………

ありがとう！各拠点から山本かなえさんにカンパ。

お知らせ

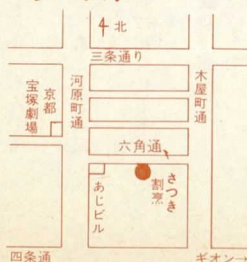
各地のもよおし 女の講座・女のつどい

京都にお越しやしたら

〈さつき〉に寄っとくりゃす

階下は大衆的なスナックになっております。

京都市中京区六角通り河原町東入ル(あじビル横)075-241-0085



「あごら」の財政について

ある手紙に答えて

「あごら」は、財政的にどうなんでしょう。苦しいんじゃないか、とばくぜんと考えていましたが、読書室に何度か出入りする機会を持つうち、どうも、だいぶ困ってるんじゃないか、と感じ始めました。この苦しい財政を支えているのは、どうやら「BOC」らしいけど、「BOC」と「あごら」の関係もよくわからない。わからなくて不鮮明だというのはいやなことですよ。それに、苦しいという実情をもっと会員にPRしたほうがいいのではありませんか。何か小さなことでも役に立ちたいと思ってる人は多いし、役に立てば喜びにもなるのです……。

こんな手紙が、関東地方のある会員から届きました。

返事を書くにすれば、とても長い手紙になります。が、「あごら」と「BOC」の関係や生い立ちは、近く発行の「あごら」二十号記念号に、十六ページにわたって紹介したので、それを読んでいただくことにし、とりあえず簡単に回答します。

新しい「あごら」の会員の中にはご存じない方も多いようですが、「BOC」は、女だけで運営している企業です。一九六四年創業、ちょうど満十五年になります。女だけの企業が生きてのびるためには、一人の女が企業の中で働き続けるための、さらに何倍もの苦勞があり、まさに、女が働くことを経験しました。

雑誌「あごら」は、この経験の中からどうしても女の連帯を深める雑誌が必要というところで、一九七二年に生まれ、これを媒介として、グループ「あごら」が育ってきたのです。

というわけで、「あごら」の出発点には、当然「BOC」が寄与しています。現在、「BOC」の職員は、「あごら」に關した仕事（事務・本の販売・編集など）にもかかわっています。

「あごら」の会計と「BOC」の会計はハッキリ分けていますが、人件費は分けにくい。同じ部屋で同じ人が仕事をしているため、誰が何時間「あごら」の仕事をしたのか区分できないのです。それで「あごら」の事務費として月額五万円、編集費として一冊二十万円、「あごら」から「BOC」に支払っています。

しかし、おおよその計算で、実際の人件費が月に、七、八万円、編集費は一冊につき三十五万円ぐらいかかりますから、

月割りにして毎月五万円ぐらい、「BOC」が「あごら」の財政を負担している勘定になります。

雑誌「あごら」の原稿やタイチンのテープほどこなどは無料ですし、新聞切り抜きなどは、ごくわずかの実費しか払われておらず、雑誌も会も、多くのボランティア活動によって支えられている状況です。

もちろん、「あごら」が豊かになり、原稿料も編集費もきちんと払えば、「経済的自立」を果たすことにもなります。そのためにご協力いただけるのなら、ぜひ次のようなことをお願いいたします。

●年間購読会員を一人でも多くふやす。（会員数が三千人になれば、会費だけで運営できます）

●公立図書館・公民館・婦人学級・学校図書館などに置いてもらう。

「あごら」をバックナンバーから揃えている図書館がだいぶふえましたが、まだまだ知られていないようです。図書館に「購入希望」を出しておく、購入される確率が高いようです。

●「あごら」に広告を出してください。（自分の店・自分の出した本、なんでも安く載せます）

●「あごら」の諸事務、「あごら」の編集や新聞切り抜きを手伝う。（あいている時間を事前に知らせて下さると大変助かります）

●「あごら基金」も大歓迎。（一口千円以上、何口でも）

「BOC」については次のようなご援助をお願いできれば幸いです。

●定期刊行物、自費出版、カタログ、パンフレットなど印刷物製作、映画・スライドなど視聴覚材料製作、ほん訳、調査、商品モニターなどの仕事をご紹介します。

（専門的な能力を持つスタッフが揃っており、誠実な仕事をします）

●「BOC」の出版物を友人知人にすすめてください。

*

「あごら」の会計は、毎年ご報告していますが、五十三年一月～十二月の決算は左記のとおりです。年間百十七万円の赤字は、「あごら基金」で埋めました。

収入	2,235,530
売上	2,037,737
雑収入	477,515
教室収入	241,543
運営収入	89,000
広告収入	76,120
会場収入	40,000
その他収入	5,197,445
売上原価	2,738,446
印刷費	280,365
材料費	200,560
編集加工費	224,790
原稿料	12,000
期首棚卸高	500,000
期末棚卸高	△1,218,500
（小計）	2,737,661
販売費および一般管理費	
事務費	686,275
家賃	600,000
通信費	528,708
広告宣伝費	256,700
発送運送費	145,540
事務用品費	71,560
交通費	49,290
図書費	46,260
会議費	19,710
福利厚生費	9,000
消耗品費	4,680
支払手数料	2,065
支払会場費	1,000
（小計）	2,420,788
経費合計	5,158,449
当期利益	38,996
前期繰越損金	△5,889,791
次期繰越損金	△5,850,795

今期は帳面上では黒字ですが、これは期末棚卸高（在庫）121万8,500円を含むためで、現金は117万9,504円の赤字。これは「あごら基金」と、54年度分会費前受金で埋めました。このため現在「あごら基金」は0。

〈集会から〉

〈アジアの女たちの会〉 結成二周年集会

先ず会場に入る前、受付のあるロビーに一步足を踏み入れただけでびっくりした。エネルギーな女たちのむんむんする熱気が満ちていた。いやよく見ると女たちばかりではない、男たちもかなりいるのである。たださえ日本の女の運動がダイナミックなものになりにくい現状で、はたしてアジアの女の問題にどれだけの人が関心を持って集まって来るだろうと半分疑って出掛けて行ったが、その疑いは見事にくつがえされた。会場へ入ってみると予感通り、すてにはば満席。通路に座り込む人もいる。参加者の顔ぶれはと見渡すと、意識と関心を持ったたくさんの女たちと、四分の一は占めていたのではないかと思われる男たちの姿。それに日本以外の国籍の人を少なからず見つけた。この二周年記念会の準備にたずさわった人たちはめいめい仕事をしながらの活動であったと聞くが、主催者たちの努力に敬意を払わずにはいられない。

会の内容は、第一部がアジア各国の差別に苦しむ女たちをスライドで紹介。各国の女たちの劣悪な労働状況や苦しい生活の様子が細かくスライドにおさめられていた。よく足を使った調査活動のたまものだろう。第二部は、この会のハイライトとも言える韓国東一紡績工場に働く女たちの、日本の女工哀史ながらの労働状況と彼女らの闘いの過程。最後にはスクラムを組んで「われらは勝利する」を韓国語で高らかに歌い上げる真に迫った劇だった。劇中、東一紡績工場に実際に女工たちを支援し闘っている三名の人物も登場して彼女たちの解放を訴え、合唱のときには手もあてずにはばらばと流す涙。会場の人々も、思わず涙を流した。第三部は、「なぜ私たちはアジアの女たちの問題にかかわるのか」、日本の男たちの「売春観光を告発する」等、メンバーによる訴え。後者はフイリピン航空勤務の女性によるものだった。日本企業のアジア進出、低賃金劣悪な条件でアジアの女たちの労働を搾取し、そうして作られた商品を日本国内でぬくぬくと使っている日本の女たちは何も疑問を感じないのか。日本の男たちが恥ずかしげもなく集団でアジアの女たちの体を買いあさっている状況に、日本の女たちは怒りを感じないのか。彼女らの痛みを分かち合おうという訴えだった。

メンバーの人たちが夜を徹して練習したという劇は、現に韓国で差別と闘い、解放を目指している女たちの様子を舞台で再現するという追体験の形をとって臨場感と説得力大で、女の問題に取り組む際の、一つの新しい方向を示したという点は評価に値する。

今度の会は、多くの人の関心をアジアの女たちの問題に向けさせたという意味で大いに意義があった。が印象としてはスライドも劇もスピーチも啓蒙的意味と訴える力は大であったが、それでは、日本の女としてこれから何をどうしていかなければいけないのか、という問題提起なり訴えが一切なされなかったのには一種の物足りなさを感じた。

売春観光に関しては、受け入れる側の政府の態度にも問題はあるとしても、送り出している側としては行政介入をしても止めさせるよう「会」としては働きかけて欲しいと思う。労働搾取問題は、その国の経済発展とかかわってくるだけに問題がなかなか難しい。資本主義や経済論議をする必要がある。

私たちが目頃かわっている身近な女の問題も、経済とは決して無関係ではない。へアジアの女たちの会が訴えた点に今後、問題意識と批判の気持ちを持ち続けるとともに、私たちの身近な、今日、明日の問題にどう生かせるか考えつつ努力についた。

(北村三和子)

またまた

女と老いについて

既報のとおり「あごら読書室」で老後問題について講演会をしました。一般公開にふみきって前反響のすごさに会場を広い所に変えることも考えたくらいです。二瓶万代子さんの体験をおしでの講演は、わかりやすく出席者の共感を呼びました。「嫁として姑につかえ問題意識にめざめ社会事業学校に入り福祉の勉強をした。子どもたちが果立って今度は自分の問題になり、老後を見つめるようになった。居住地域の福祉が基本と考えて仲間と市に交渉をして、草の根住民運動

と公的機関のサービスを上手にむすびつけリハビリテーションセンターを創った。いま運動は、せめて自分たちは寝たきり老人になるまいよ。がモットー」

講演後、活発な質疑応答。出席者は自分のことを話し聞いてもらいたいという欲求が多いようでした。

そこで「あごら京王」は次回の例会を、合宿に企画し時間切れのため話し合えなかったこと、問題点の再検討等をしたいと思ひます。女性解放とのつながりもつと堀り上げてみたいのです。若さを保つヨガがプログラムしました。皆さま快適な環境で一晩集いませう。

とき 4月28・29日(日)

ところ 埼玉県 嵐山町大字菅谷28

国立婦人教育会館

参加費 二千元(宿泊費も含む)

問い合わせ 〇三454-11070(呼) 山上時子

ありがとう!

各拠点から山本かなえさんにカンパ
東村山市議選に立った山本かなえさんに続々カンパ、感激しています。いま、ハガキ一枚書けない超多忙の彼女に代わって、心からお礼を申し上げます。

四月十二日からは、いよいよ本番。二十一日まで、市中を回り歩きます。事務局からは山田朋子さんが十日間はりついて、美声をひびかせる予定。二時間でも三時間でも手伝える方、ご連絡ください。

〈女のつどい・女の講座〉

日	時	テ	マ	会	場
4月12日(木)	10:00~12:00	産婆の学校 〈ホビット村学校〉		ホビット村	03-332-1187
14日(土)	14:00~	「女にとって子どもとは」〈あごら九州・例会〉		福岡市婦人会館	092-712-2662
	19:00~	女と男の井戸端会議 〈ホビット村学校〉		ホビット村	
15日(日)	12:30~14:30	産婆の学校 〈ホビット村学校〉		ホビット村	
	13:30~16:30	あごらミニ28号第2回編集会議 〈あごら京都〉		シャンバラ	075-821-3579
16日(月)	13:30~	ヤングレディ裁判		東京地方裁判所	
17日(火)	18:00~20:00	ヨガ教室 (毎週火曜日、入会金5000円、講習料4000円)〈独身婦人連盟〉		すべーすJORA	03-203-6022
19日(木)	18:30~	労働分科会 〈国際婦人年をきっかけとして行動する女たちの会〉		中島法律事務所	03-350-6082
20日(金)	10:00~	「婦人労働におけるパート・内職の位置づけ」〈あごら東海・例会〉		名古屋市婦人会館	052-331-5288
	19:00~21:00	小西あやのでんぐりがえ史「女の目から歴史を語る」〈JORA〉		すべーすJORA	
21日(土)	13:30~15:30	「技術、家庭科の「相互乗入れ」をどう実践するか」〈家庭科の男女共修をすすめる会〉		婦選会館	03-370-0238
	15:30~	総会 〈家庭科の男女共修をすすめる会〉			
	19:00~22:30	女のパーティー 〈まいにち大工〉		すべーすJORA	
22日(日)	13:00~16:30	結婚の意味を問う継続討論 〈藤村 哲〉		豊島振興会館小会議室	
	18:00~20:00	コンサート・触私今 演奏 レディ・キラーズ (前売700円 当日800円)〈JORA〉		すべーすJORA	
24日(火)	10:00~12:00	鉄連の仕事差別裁判		東京地方裁判所民事6部	
25日(水)	18:30~	あごら北海道・例会		北海道クリスチャンセンター	
26日(木)	18:30~	「統一地方選挙が終わって」〈あごら北東京・例会〉		婦人共同法律事務所	03-985-3308
27日(金)	10:00~	「地域の婦人活動」体験談 愛知県地域婦人連合会会長 横地さだえさん〈あごら東海・学習会〉		名古屋市婦人会館	
28日(土)		私たちの男女雇用平等法をつくる会・討論集会 (問い合わせ 260-4771)			
29日(日)	13:00~16:00	「女と老い」〈あごら京王・宿舎〉 (参加費 2000円 宿泊費も含む)		国立婦人教育会館	0436-2-6711
		「文教における女性の地位」講師 光華女子大学教授 道端良秀氏		京大会館	
		「仏教の女性観——鎌倉浄土教を中心として」報告者 源 淳子			
		〈日本女性学研究会〉			
30日(月)	18:30~	労働分科会 〈国際婦人年をきっかけとして行動する女たちの会〉		中島法律事務所	
5月5日(土)	19:00~22:00	パーティーどん 〈56番館〉		すべーすJORA	
7日(月)	19:30~	あごら武蔵野・例会		東村山福祉センター	
11日(金)	19:00~21:00	小西あやのでんぐりがえ史 〈JORA〉		すべーすJORA	
12日(土)	15:00~	水田珠枝「女性解放思想史」出版記念会 〈あごら東海・国際婦人年あいちの会・あいち女性研究者の会 共催〉		城山会館 (地下鉄本山下車)	
	19:00~	女と男の井戸端会議 〈ホビット村学校〉		ホビット村学校	
13日(日)	13:30~16:00	「回教文化圏における女性」講師 片倉もとこ氏 ゲストスピーカー エジプトからの留学生 〈日本女性学研究会〉		京大会館	
19日(土)	19:30~22:30	女のパーティー 〈まいにち大工〉		すべーすJORA	
20日(日)	13:30~	あごら20号合評会 〈あごら京都〉		未定	
	19:00~	冒険少女クラブ		すべーすJORA	
27日(日)	18:00~20:00	コンサート・触私今 演奏 水玉消防団 〈JORA〉		#	

各地のあごら連絡先

あごら旭川	旭川市神楽岡一条五丁目3 田代慶子 ☎01666 655 6237 予078-11
あごら札幌	岩見沢市九条西三丁目 山口里子 ☎01262 446 772 予068
あごら北東京	川口市芝北町3413 宗久知恵子 ☎0482 655 0241 予332
あごら武蔵野	小平市小川町1-763-86 丹羽雅代 ☎0423 443 6749 予187
あごら京王	府中市晴見町3-21 関 和子 ☎0423 62 4705 予183
あごら神奈川	川崎市多摩区生田4634 沼田千恵子 ☎044 933 9079 予214
あごら東海	名古屋市長区大高町伊賀殿107 高橋ますみ ☎052 622 4926 予459
あごら京都	京都市左京区北白川久保田町36-4 塚崎美和子 ☎075 791 4623 予606
あごら阪神	尼崎市武庫之荘3-6-6 木沢みすず ☎06 431 5376 予661
あごら九州	福岡市西区笹丘2-4-6 小島豊子 ☎092 521 7624 予810

〔編集後記〕 二十号記念号の迫り込みでフラフラ。『ミニ』は休もうとの意見も出ましたが、「無断欠勤」はよくないと、とにかく「ミニのミニ」をお送りします。二十号は、「ひろがる女性解放と男女雇用平等法」田中寿美子、水田珠枝、漆田和代三氏の論文はじめ、ずしりと余分に刷り、この機会に初めて「あごら」の宣伝を、と意気込んでいます。ご期待ください。